

農と暮らしの新たな視点を探る

# 産直コペル

sanchoku cooper

2016.1 Vol.15

## グローバル GAP

取得農家に聞く!

THE  
ボイス

愛媛県  
天空の郷さんさんから  
現場の声を発信します!

土から育てる VOL.4

## リーフ レタス

土耕で年間  
14回転

直売所から考える

# TPP

**【特集】**

# 全国農林水産物 直売サミットin秋田

# 農福連携と地産地消

東京農工大学 野見山敏雄

先日、観光農園「アグリ」の里おいらせ（以下、アグリ）の里おいらせを訪ねた。おいらせ町は青森県の東南部に位置し、青森市から80、90km圏にある。当町の面積は72km<sup>2</sup>、人口は24211人（2010年国勢調査）で、高齢者比率は21%である。主要な農産物はだいにんじん、ごぼうである。

アグリ）の里おいらせは年間を通して楽しめる体験型の総合観光農園である。「見る、収穫する、食べる、ふれあう」をテーマとして、高齢



中央が苦米地さん

者や障がい者にも優しい観光農園を目指している。観光農園は温泉の廃熱を利用し、いちごは数品種を栽培していちご狩りが周年楽しめるようになってきている。そこで生産されたいちごや熱帯果実は、農産物直売所で販売されるほか、農園レストランの食材として利用される。これら果実は冬期寒冷の地元で収穫体験できることで来場者には好評を得ている。

農産物直売所、レストラン、加工施設を合わせた売上額は2億3



もち性小麦を使った「姫っもち」を製造

千8百万円であり、レジ通過客からの推計値では来場者数は年間42万人を超えている。農産物直売所の出荷者は134名であり、おいらせ町のほかに三沢市や十和田市など広範囲にわたっている。

アグリ）の里おいらせの特徴の一つは、農福連携に力を入れていることである。一般に授産施設の賃金は低く、自立できる給与水準でないことに前代表の苦米地義之氏は心を痛めていた。苦米地氏は農業を取り入れた授産施設の設立を構想し、父が経営する特別養護老人ホームに勤務する傍ら、全国の先進的な授産施設や農業観光施設を見て回った。そして、2004年に隣接する老人福祉施設の温泉を利用して、熱帯果樹ハウスを建設した。2年後には熱帯果樹を活用した観光果樹園と農産物直売所を開業した。2008年にはアグリ）の里作業所を設立し、障がい者を農園管理員に雇用した。現在の職員数は、正職員18人、パート15人、障がい者16人であり、人件費の総額は7900万円である。障がい者はレストラン7人、広域物産館5人、そば処2人、農業部門2人が生き生きと勤務している。

また、農家レストランの食材仕入れの考え方は、第1に地元産（自社産野菜を含む）、第2に青森県産品、そして県内では調達できない食材は県外から仕入れられている。自社栽培のミニトマト、サラダ菜、いちごなど11品目を含めて、青森県産品は49品目にもなっており、品目ベースの地産地消比率は68%と高い。

このように、アグリ）の里おいらせは地域の食と農と経済に大きな貢献を果たしている観光農園であり、その成長が止まることはない。（株）アグリ）の里おいらせは、平成27年度地産地消優良活動表彰・農林水産大臣賞（交流促進部門）を受賞した。

## 野見山敏雄さん

東京農工大学大学院農学研究院教授

東京農工大学で教鞭をとっており、最近の研究テーマは、半商品経済を組み込んだ農林産物の生産と流通に関する総合的研究である。主な著書には、産直商品の使用価値と流通機構（日本経済評論社）や食料・農業市場研究の到達点と展望（筑波書房、共著）など多数。2012年11月より地産地消優良活動表彰審査委員会・委員を務めている。

